

透析室

# 血液浄化センター

Blood Dialysis Center

の紹介

血液浄化センター  
臨床工学技士 川内 直



当院の血液浄化センターはベッド数18床+個室2床の20床が(内ON-LINE HDF専用機を7台保有)、月~土で稼動しており年間約5500件の治療を実施しています。

夜間透析は実施していませんが緊急透析業務は365日、24時間体制で対応しています。



個人用血液浄化装置

腹膜透析はCAPD室を1部屋配置し、厳密な腹膜管理と透析法の指導を積極的に実施しています。



腹膜透析を行うCAPD室



臨床工学技士は透析機材の準備、透析液の作成、プライミング、穿刺、透析中の患者モニターの監視、返血などの臨床業務をはじめ、患者様に安全な治療を受けていただけるように血液浄化装置の始業点検、定期点検、オーバーホールなどの機器管理や透析液の水質管理を実施しています。



安心して治療が受けられる環境を提供しています。



血液浄化装置の準備



末梢血幹細胞採取 (PBSCH)

血液浄化センターでは、一般的な血液透析の他にプラズマフェレシス(単純血漿交換、LDL吸着療法、ビリルビン吸着療法、免疫吸着療法など)、血液吸着療法(エンドトキシン吸着療法・活性炭吸着療法など)、サイタフェレシス(L-CAP、G-CAP)、難治性腹水に対して、腹水濾過濃縮再静注法(CART)なども行っています。また血液疾患の方には末梢血幹細胞採取(PBSCH)も行っています。

血液浄化センター以外でも、ICU・CCU(集中治療室)でのエンドトキシン吸着療法、持続的血液濾過透析療法(CHDF)や血漿交換療法、また出張透析も行っています。

その他各診療科からの緊急透析、持続透析や血漿交換、血液・血漿吸着除去療法などの特殊血液浄化にも24時間対応しています。

血液浄化センターでは、一般的な血液透析の他にプラズマフェレシス(単純血漿交換、LDL吸着療法、ビリルビン吸着療法、免疫吸着療法など)、血液吸着療法(エンドトキシン吸着療法・活性炭吸着療法など)、サイタフェレシス(L-CAP、G-CAP)、難治性腹水に対して、腹水濾過濃縮再静注法(CART)なども行っています。また血液疾患の方には末梢血幹細胞採取(PBSCH)も行っています。



CHDF専用機の始業点検

# くす通信

第157号  
2014年3月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

## 腎臓内科より

1. 高齢の腎臓病患者さんの中で多い疾患「顕微鏡的多発血管炎」について  
とくに「ANCA(アンカ) 関連腎炎」について

## 臨床工学技士より

2. 「血液浄化センター」の紹介



## 「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。  
また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医学に関する書物のことを言います。  
本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

# 国立病院機構熊本医療センター

## 診療科

- 総合医療センター 総合診療科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
- 消化器病センター 消化器内科
- 心臓血管センター 循環器内科、心臓血管外科
- 脳神経センター 脳神経外科、神経内科
- 感覚器センター 眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
- 画像診断・治療センター 放射線科
- 救命救急センター 救急科
- 精神科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 泌尿器科
- 産婦人科
- 歯科口腔外科
- 形成外科
- 麻酔科
- 病理診断科

🕒 診療時間 8:30～17:00  
🕒 受付時間 8:15～11:00  
🗓 休診日 土・日曜日および祝日

〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5  
TEL 096 (353) 6501 (代表)  
FAX 096 (325) 2519  
H P <http://www.nho-kumamoto.jp/>

急患は  
いつでも  
受け付けます

## 腎臓内科

### ◀ 診療内容・特色

当院がいろいろな診療科を備えている救急病院のため、いろいろな合併症を持つ透析患者の急患を常時受け入れています。緊急を要する症例についてはオンコール制をとっており、緊急透析業務は365日、24時間体制で対応しております。慢性腎臓病、急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎症候群、急性腎不全、保存期慢性腎不全に対してもすみやかに対応しております。腎生検検査も可能です。日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会の認定施設です。

### ◀ 今後の目標・展望

新病院では透析病床は旧病院と比較して大幅に増床(10床→20床)され、CAPD室も確保され、旧病院より一層の機能充実が図られております。腎臓病を通じて熊本地区の地域医療にさらに貢献してゆきたいと存じます。CKD(慢性腎臓病)対策においても専門医の立場から積極的に取り組み、透析導入になる患者様が1人でも減るように努力しております。また、腹膜透析にも力を入れ、希望される方には「PD(腹膜透析)ファースト」という治療戦略を取り入れます。すなわち、透析が必要な状態になった場合に、初めから血液透析を行うのではなくて、腹膜透析を先に行った後5年経過したら血液透析に移行する、という方法で、御自身の残腎機能が減りにくい(つまり、透析になっても尿量が減りにくい)という特長があります。

## 腎臓内科より

高齢の腎臓病患者さんの中で多い疾患

## 顕微鏡的多発血管炎

けんびきょうてき たほつけっかんえん

とくに

について

## ANCA(アンカ)関連腎炎

について

腎臓内科医師 梶原健吾

高齢の腎臓病患者さんの原因疾患としては、生活習慣病以外に激しい炎症によるものがあります。今回は顕微鏡的多発血管炎そのなかでもANCA(アンカ)関連腎炎について御説明します。

**この疾患は60歳台を中心とし、それより高齢の患者さんにも多い疾患**です。自分の体に対するANCA(アンカ)抗体ができてしまうために発症してしまいます。御存知の様に、抗体というのはインフルエンザに対する抗体をワクチン接種することで獲得するように、本来はバイ菌を攻撃して自分の身を守る大切なもので、いわゆる免疫というシステムの一部です。しかし、困ったことにANCA抗体は自分の体に対する抗体で、未だになぜこのような抗体ができてしまうのかわかっていませんが、自分の体を免疫システムが間違えて破壊してしまうのです。とくに被害を受けやすい臓器が腎臓そして肺です。腎臓であれば急速に腎不全へと進行し、高血圧、血液の成分異常、尿毒素の上昇、全身のむくみなどが出現し、場合によっては透析が必要です。また、肺では咳・呼吸苦が中心の特殊な肺炎や咯血が出現したりすることがあります。

**この病気の難しいところは、発症時に特徴的な症状があるわけではなく、発熱や全身倦怠感といった風邪のような症状のため区別ができないところ**です。感冒様症状で受診したものの、かかりつけの先生がいつもと経過が違うために血液検査や尿検査を行い、この疾患の疑いが出るのがほとんどです。(かかりつけの先生をお持ちになることが大切です)しかし、この腎臓病は先ほど述べた理由でなかなか診断が難しいこと、ほとんどが急激に進行するため、治療に至るまでに上記であげた症状が出現する場合が多数を占めます。

診断方法としては、ANCA(アンカ)抗体が上昇していることや腎臓の組織検査をすることで診断されます。組織診断が必要かどうかは、患者さんの個々の状況によって異なります。通常の場合、間違いなくその疾患であるかどうかを確認すること、並びに重症度を把握するために必要です。治療に必要なお薬の種類が変わることがありますので、とても大切な検査です。しかし、すでに全身状態が重篤であったり、組織検査の合併症が高度に予測されるときなどは、必ずしも組織検査にとらわれずに治療を行うことがあります。

この疾患は、本来バイ菌と戦うはずの免疫システムが自分の体を破壊する疾患ですから、**この免疫を抑制するお薬で治療することがメインになります**。その代表がステロイドというお薬です。このお薬は悪い評判ばかりを耳にしますが、この病気ではとてもよい働きをしてくれるお薬です。その他に、臓器移植とかでお耳にされたことがあるかもしれませんが、免疫抑制薬であるシクロホスファミドやミゾリピンといったお薬を追加したり・そちらに移行したりすることもあります。経過が良ければこれらのお薬はゆっくり減らしていくことになりますが、厄介なことに、減量しすぎると再発してしまいます。しかもこの量に個人差がある為、この調節が大変難しいのです。ですので、基本的にこれらのお薬はずっと飲み続けていただく必要があると思ってお下さい。

当然、免疫を抑制するわけですから、バイ菌に感染しやすくなります。これら免疫抑制によって、肺炎になったり、バイ菌のなかでもウィルスやカビと戦わねばならないこともあります。基本的には衛生状態を良くしていただき(手洗い・うがいなど)、症状があるなら受診していただくことが大切です。ステロイドは内服量が多い状態では、胃潰瘍、血栓ができやすい状態、骨がもろくなるといったことがありますので、予防のお薬を内服していただきます。また、高血糖や高脂血症が出現する場合はその対策を取ります。白内障や緑内障対策のために眼科の先生と連携して治療にあたっていくことになります。

**上手につきあって長生きしましょう!**